

地域の多様な教育資源を活用した 新たな普通科の設置に向けた調査研究

自らの可能性を切り拓く

未知なる世界への挑戦

地域が持つ自然・文化・歴史をそのまま教材にして、そして宇宙へ



和歌山県立串本古座高等学校

KUSHIMOTOKOZA HIGH SCHOOL

和歌山県立串本古座高等学校（全日制未来創造学科）

〒649-3503 和歌山県東牟婁郡串本町串本1522

TEL: 0735-62-0004 FAX: 0735-62-1794

E-mail: postmaster@kushimoto-h.wakayama-c.ed.jp



<https://www.kushimoto-h.wakayama-c.ed.jp>

令和5年7月発行

新時代に対応した高等学校改革推進事業
令和4年度～令和6年度 研究指定校

本校の概要

□所在地：和歌山県東牟婁郡串本町串本1522

□歴史：1918年（大正7年）開校

☆2008年（平成20年）に、
串本高校と古座高校が
合併して、串本古座高等学校に

□校訓・校是：進取創造・質実剛健

□生徒数：3年生 普通科 50 / 120

2年生 普通科 79 / 120

○クリエイティブコース ○グローバルコース ○アドバンストコース

1年生 未来創造学科 80 / 120

○地域探究コース（44名）○文理探究コース（29名）○宇宙探究コース（7名）

計209名



本校の概要

□教員数： **32名**

□普通科改革コーディネーター **1名**

□地域協議会コーディネーター **2名**

□平成29年度から(2017年)

「串本古座高校魅力化プロジェクト」

串本町・古座川町・本校で**地域協議会**を設置

○全国募集の開始 ○地域包括的支援部(CGS)の設置 ○「地域まるごとキャンパス構想」 ○公営塾

・・・**地域の教育資源**を活用した特色ある授業展開

☆全国募集生徒 計**21人** (1年生6人 2年生10人 3年生5人)

□令和4年度から(2022年)

「新時代に対応した高等学校改革推進事業」の指定校 (学科の種類:地域社会学科)



R4

R5

本校のロジックモデル

R6

インプット

アクティビティ

アウトプット

中間アウトカム

最終アウトカム

教育課程等開発

宇宙探究・地域探究
コースの
カリキュラム開発

→ 学校設定教科(宇宙)および
学校設定科目の構築

年間を通した全教科の
カリキュラムマネジメント
の構築

→ 講師招聘事業・先進校視察・
域内の学校との連携

大学関係者・企業など
からの指導・支援

地域の自治体・地元企業など
との連携を深化

産官学等連携の深まり

→ 国内の高校との
交流・連携

探究活動の 実践力向上

生徒・教員ともに
探究方法の共有化

レポート・プレゼンテーションの
実践的な理解

インタビュー・フィールドワークの増加

各教職員の理解促進

パフォーマンス課題の開発と共有化

各授業の評価規準ルーブリック等の作成

生徒が主体的に学習に取り組む
態度の共通理解

地域の学校として育成したい
資質・能力の共有化

生徒理解の促進

専門的な知見に触れる機会の増加

地域の資源や課題に直接
触れる機会の増大

地域に留まらない多様な
価値観との接触

生徒の繋がりの機会増加

生徒の動きが 活発化

探究課題の提案回数
や発表回数の増加

ICTやSNSを活用した
情報発信の増加

パンフレットやポスターによる
情報発信の増加

生徒の意識が向上

探究課題を、より自分ごと
と捉える意識の向上

生徒自身の学校や地域社会
への参画意識の向上

地域への愛着と貢献意識
および宇宙規模の視点で
物事を捉える意識の向上

生徒の行動変容

提案・発表内容の実行に
移す回数の増加

→ 自ら地域に出て、さらなる
問いを立て、探究する
生徒の増加

串本古座高校の
教育目標実現

カリキュラム・グラ
デュエーションポリ
シーの実現

広い視野や探究心を
持ち新たな価値創造
に挑戦する力や社会
や地域の課題を主体
的に考え解決してい
こうとする力の育成
の実現

コンソーシアムの
設置

運営指導委員会
の設置

校内組織の設置
・事業推進委員会
・教育課程検討委員会

コーディネーター
の配置

普通科改革支援事
業費

令和5年度の成果と課題

ロジックモデルとの検証

教育課程等開発

宇宙探究・地域探究 コースの カリキュラム開発	教育課程検討委員会が 先導して各教科との 連携をはかり、 カリキュラム開発と 学校設定科目を構築し 職員会議にて決定
学校設定教科(宇宙) および 学校設定科目の構築	
年間を通した全教科の カリキュラムマネジメント の構築	令和6年度も 継続して強化を図る

探究活動の実践力向上

生徒・教員ともに 探究方法の 共有化	事業推進委員会が 先導してビジョンを示し、 総合的な探究の時間を 中心として機会の 増加と内容の充実に 努めているが、 令和6年度には学校 設定科目にも広げて 実践力の向上に努める
レポート・プレゼン テーションの 実践的な理解	
インタビュー・フィールド ワークの増加	

生徒の動きが活発化

探究課題の提案回数や 発表回数の増加	総合的な探究の時間 で働きかけを強化し ているが、令和6年 度には学校設定科目 にも広げて機会の 増加に努める
ICTやSNSを活用した情 報発信の増加	
パンフレットやポスターに よる情報発信の増加	

産官学等連携の深まり

講師招聘事業・先進校視 察・域内の学校との連携	運営指導委員会での 協議事項をもとに、 串本古座高校魅力化プ ロジェクトを地盤として、 新しい時代の視点を取り 入れてブラッシュアップ を実施
大学関係者・企業などから の指導・支援	
地域の自治体・地元企業な どとの連携を深化	
国内の高校との 交流・連携	令和6年度も 継続して強化を図る

生徒理解の促進

生徒が主体的に学習に 取り組む態度の 共通理解	全教職員を対象とした ワークショップ形式の 現職教育を複数回実施 し、育成を目指す資質・ 能力と生徒像の共通理 解を深め、ひいては授業 改革を促す取り組みを実 施して、その成果を得た
地域の学校として 育成したい 資質・能力の共有化	

各教職員の理解促進

パフォーマンス課題の 開発と共有化	現職教育において方 向性を周知。令和6 年度より総探や地域 探究と宇宙探究、学 校設定科目で授業を 改革
各授業の評価規準 ルーブリック等の作成	

生徒の繋がりが増加

専門的な知見に触れる 機会の増加	串本古座高校魅力 化プロジェクトをブ ラッシュアップして 令和6年度に 総探や地域探究と宇 宙探究、学校設定科 目で強化する
地域の資源や課題に 直接触れる機会の増大	
地域に留まらない 多様な価値観との接触	

令和6年度より新学科を開設

新学科名：未来創造学科

自らの可能性に果敢にかつ自由に挑戦し、実践的・探究的な学びをとおして
自分の将来や社会の未来を創造しながら切り拓いていく生徒を育む普通科高校

『 生徒の未来、地域の未来、世界の未来を創造する 』

地域が持つ魅力的な教育資源を活かした新たな3つのコース

☐ 宇宙探究コース

全国初！

**公立高校の宇宙関連教育を
リードする！**

普通科の科目以外に、宇宙産業
関連企業や大学等の研究機関と
連携した探究的な学び

☐ 文理探究コース

**国際的、科学的な学びを
追究する！**

人文・社会・自然科学のすべての
学習をおこない、積極的な外国
や地域との交流をとおして
地域課題解決に資する力や国際
感覚、語学力、科学的な視点を
養う探究的な学び

☐ 地域探究コース

**紀伊半島でしか
できない学びを
提供する！**

少子高齢化や地場産業の衰退等、
今後の日本が直面する課題に対
して、教科間や学校と地域間に
おける往還型の探究的な学び

新学科における特色ある教育内容

複合的なフィールドを活用した教科横断的かつ探究的な学びの実践！

□宇宙探究コース

全国でも有数の、最先端の教育資源が間近にある環境を最大限に生かすため、「宇宙」を専門に学ぶ新たなコースを設置。

宇宙教育を核に、既存の教科・科目にとられない、教科横断的で探究的な学びを行う。

宇宙探究コースでの学びを通して、未知の世界への探究の足跡を学び、生徒自身が主体性を持ってこれからの宇宙産業についての探究に参画することで、科学への興味・関心や学ぶ意欲を高めるとともに、多面的・総合的に考える力を養い、未来を切り拓く人材を育成する。



□文理探究コース

人文・社会・自然科学の全ての領域について幅広い学問的素養を養うとともに、地域に根ざした教育資源を採り入れ、積極的に海外と交流し、地域・国際観や語学力を身につける。

また、より専門的な知識の探究を通じて、異なる価値観の人々と協調し、状況の変化にシなやかに対応した新たな技術や仕組みを、主体的に創造できる態度を培う。

さらには、多元化、情報化の深度が増すと予測されるこれからの国際社会を牽引するために、論理的・科学的な視点から物事を分析し、変化に適應できる人材を育成する。



□地域探究コース

これまで積み重ねてきた地域との協働的な学びを学校設定教科・科目として新たに発展的に設定し直し、少子高齢化や地場産業の衰退などの、今後の日本が直面する課題に対して、教科間や学校・地域間における往還型の学びを経験することを目指す。

現存する地域の魅力や資源を学ぶのみならず、課題意識を持って地域資源の保全、活用に取り組むことで、地域の課題と広く日本全体や世界全体で起きている課題との相互の関連を見出し、それらの課題解決に向けて行動できる、グローバルな視点を持つ人材を育成する。



地域が持つ魅力的な教育資源

地域が持つ自然・文化・歴史をそのまま教材にして、そして宇宙へ

串本・古座川地域における貴重な自然や文化を探究することは、地域が持つ魅力の再認識と、培ってきた文化の継承、新たな形での活用を考察する一助となる。それは、地域への愛着を育むとともに、自らのあり方・生き方を考え、確固たる世界観や価値観を確立することにつながる。

また、世界的に最先端の宇宙施設や、確かな実績を積んでいる試験場など、未来を担っていく技術や産業の一端を垣間見ることは、主体的に課題に取り組み変化に柔軟に対応する力、将来への展望など、これからの社会に必要な能力の獲得につながる。

さらに、特に宇宙教育を行うなかでは、新たな産業や常識の開拓に挑む人々に接することができる。

地域の未来を担う高校生にとって、既存の環境に甘んじることなく、自らの手で変化を起こそうとする人々との交流は、単なる知識・技能の修得以上の効果をもたらすことになる」と期待している。

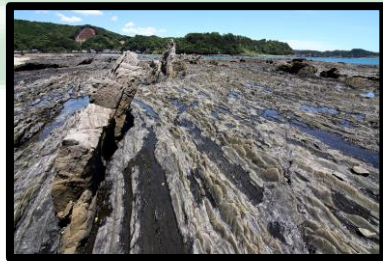


世界遺産
「紀伊山地の霊場と参詣道」

地域まるごとキャンパス構想を
新時代の学びにあわせて
ブラッシュアップ



清流 古座川



南紀熊野ジオパーク



ロケット射場



ラムサール条約
登録地



サンゴ群落

トルコとの国際交流

地域が持つ魅力的な教育資源を活かした学校設定科目

地域を世界の縮図と捉えて、地域をフィールドにして、体験的・探究的な学びを実現する

文理探究コース

1年次	地域探究
2年次	宇宙ビジネス探究
2年次	実用英語
2年次	現代文探究
3年次	総合英語探究／生物／物理
3年次	応用社会探究／生物
3年次	応用国語探究／応用理科探究

知を究める、論理的に学ぶ！



ジオパーク学探究



南紀デュアル



マリンスポーツ



南紀自然文化探究



南紀食文化探究



宇宙探究基礎

地域を学ぶから
地域で学ぶへ！

宇宙探究コース

1年次	宇宙探究基礎
2年次	宇宙ビジネス探究
2年次	宇宙観測と利活用
2年次	宇宙航空工学
3年次	衛星データ分析と活用
3年次	宇宙と国際理解



水産生物探究

宇宙を学ぶ、宇宙から学ぶ！

地域探究コース

1年次	地域探究
2年次	マリンスポーツ
2年次	フードデザイン
2年次	情報デザイン
2年次	南紀デュアル
2年次	紀伊半島探究 α
2年次	介護福祉基礎
3年次	文化共創探究
3年次	観光経済
3年次	ジオパーク学探究
3年次	聞書人物探究
3年次	宇宙総合探究
3年次	水産生物探究
3年次	紀伊半島探究 β
3年次	南紀食文化探究

地域を究める、体験的に学ぶ！

令和5年度の取り組み

新カリキュラムの具体的な学習内容を検討！
各教職員の理解を促進し、令和6年度に備える！

先進校視察と情報共有

計8名が3組に分かれて
4校を視察

校内で報告会を
実施し、情報を共有



改革を志す他の学校の
現状を知り、自分ごとと
して考える機運の
醸成につながった

各教職員の理解の促進

各教員の授業工夫を
紹介
「TryReport」

授業改革の広報に努め、個々の教職員が持つ知識や
授業開発の観点とスキルを共有し合い、ともに高め
合える環境作りに注力し、授業改革の意識と意欲の
高揚と本校が掲げる教育ビジョンとの関連づけへと
繋げた

宇宙専門職員の配置

①宇宙探究コースの
学校設定科目の
活動計画立案

各教科担当者らと協働で素案を企画・作成し本事業
の管理機関である和歌山県教育委員会に諮って内容
を決定

②对外宣伝兼宇宙
教育活動

宇宙の魅力やおもしろさを共有し、本校の宇宙探究
コースに興味を持つ人材を増やすことを目的に、宇
宙出前授業、探究活動向け授業、講演などを実施

③大学等との連携

本校の宇宙探究コースの趣旨に興味を持ち、一緒に
授業を盛り上げてくれる大学や研究機関との連携に
向けた調査・調整を行う

学校改革に係る教員研修

現職教育①
発達に課題のある
生徒の理解と支援

新しい学校をよりよいものとするため、
様々な機会を利用して教職員全員が学校
改革の理解を深めたり、各人の教育力
向上に資する研修を行った

現職教育②
星空を活用した持続可
能な観光地域づくり

地域との協働活動に高校生が交わることは、
教育面からも地域振興の面からも有望である
ことを理解した

現職教育③④
よりよい授業のための
ワークショップ

新学科・新コースのスタートに向けて、より良い
学校を作る上で、やはり授業を大切にするという
ことが不可欠であることの共通理解を深めた

「地域分析」の
統計研修

統計資料を用いた分析やオープンデータを
活用した探究的な授業を展開するための
指導力向上に努めた

新学科設置に際して苦労・工夫していること

各教職員の理解促進への取り組み

新学科への**改革の肝は、授業改革**であるということ！

教職員の共通理解を深め、最終到達点は授業改革！

各教職員が、本校の新たな普通科における取組の目的と目標を理解し、新設された未来創造学科における授業を中心とした教育を通じて、チーム学校として育成を目指す資質・能力を向上させる授業実践ができることが重要

STEP1 よりよい授業のための ワークショップ

新学科・新コースのスタートに向けて、より良い学校を作る上で、やはり授業を大切にすることが不可欠であるという認識のもとに、全教職員を対象に現職教育を実施し、3人で一つのグループを組み、様々なテーマについて議論した。

- テーマ①授業の前提条件の合意形成
②個別最適な授業の条件
③50分の授業のやりがい
④生徒に実感させたい事

STEP2 現状の分析から未来を 創造するためのワークショップ

今年度の成果と課題から本校の現状を分析するためのワークショップを、前回と同様に全教職員を対象に現職教育で実施した。
3人で一つのグループを組み、授業指導と生徒指導の側面から成果と課題を分析した。また、それをもとに生徒の未来を創造するための取り組みとして、重要度の高いものと緊急度の高いものをマトリックスに整理し、来年度の取り組みの重点事項として教職員間で共通理解を深めた。

STEP3 Try Reportの発行

各教職員の授業実践報告と自己評価、さらなる改善ポイントを整理した「Try Report」を発行して授業改革の広報に努め、個々の教職員が持つ知識や授業開発の観点とスキルを共有し合い、ともに高め合える環境作りに注力し、授業改革の意識と意欲の高揚と本校が掲げる教育ビジョンとの関連づけへと繋げた。

Try Report!

各教職員の理解促進への取り組み

教職員の共通理解を深め、
最終到達点はチーム学校で取り組む授業改革！

各教職員の授業改革の報告と自己評価、さらなる改善点を整理するとともに、個々の教職員が持つ知識や授業開発の観点とスキルを共有し合い、ともに高め合える環境作りのために発行している。そのことにより、真摯に授業の改革に向き合う教職員の個々の努力が形となり顕在化されている。周知されることで個々のポジティブな教育活動へと繋がり、授業改革が発展するよう心掛けている。

2024.01.19		VOL. 2	
Try Report!			
チャレンジする教師の姿を見せる！ 本気で探究する大人の姿を見せる！			
最先端の授業を受けられる喜びと安心を！			
実践者	戸瀬 太貴	教科・科目	理科・生物基礎
探究課題	「知識を学ぶ」から、「考え方と面白さを学ぶ」へ ～授業方法の探究～		
P・意図・ねらい（なぜこのような授業が必要だと思いましたか？）			
①：情報化やAIの発展等による社会情勢の変化や、学習範囲の重畳化、②：①に伴った生徒に求められる力の変化、③：入試問題の定質（思考問題の増加、知識問題でも丸暗記では点を取れないような意図的な出題方法の変化）、④：計算や難解なイメージ先行による理科離れ、等により授業において求められる役割のうち、「知識を与える」役割のウエイトが減り、「考え方や学び方を教える」役割のウエイトが高まっている。そのため、教科書の知識を応用して解釈する力、および授業外でも生徒が進んで学ぶ力をつける授業法を模索している。			
D・実践形態			
「光合成活性が明所と暗所で異なる理由は何ですか？」「植物はどのように、またなぜそのような戦略をとるのか？」など、考えるための知識の提供は最低限に抑え、教師－生徒、または生徒－生徒間での討論に比重を置く授業を心がけた。また、実際に明所と暗所に生える葉をとってきて提示し、生物の生態を踏まえながら討論させた。			
D・指導上の留意点（授業を実践するうえでどんなことに留意しましたか？）			
①生徒に全て丸投げせず、今日のテーマを科学的・生物学的に議論するために必要最低限の知識は時間を取って教えた。②イメージしやすいよう、実物を用意した。③どんなときでも理由を科学的・生物学的に検討するよう指示した。④議論が深まるよう、生徒の仮説に対する反論や「その考え方なら～の場合はどうなるか？」など掘り下げを与え、班全員で再検討させた。			
C・自己評価			
	個別最適指数	50分のやりがい指数	探究指数
	1・2・3・④・5	1・2・3・④・5	1・2・3・4・⑤
C・感想			
仮説や検討を踏まえずに結果だけを教える圧縮した授業よりも、時間当たりに知識を教えられる量は減るが生徒の満足度や理解度、興味は高まるように思える。「楽しかった」で終わるのではなく、知識や考え方、興味などのくらい身につけているか気になるところである。			
A・改善課題（改善点があれば教えてください）			
授業進度が遅くなるので、ポイントを絞って実施することが必要。 また、授業準備・教材研究の時間が多く必要。			
失敗はない！ 失敗しても果敢に取り組む教師の姿を見せる			

Try Report! Digest

VOL.01	教科	理科・化学基礎	協働的	対話的	I C T	
	テーマ	協働的な学び（生徒同士で教え合い学び合う）の相乗効果について				
VOL.02	教科	理科・生物基礎	探究的	協働的	対話的	体験的
	テーマ	「知識を学ぶ」から、「考え方と面白さを学ぶ」へ ～授業方法の探究～				
VOL.03	教科	数学	協働的	対話的		
	テーマ	教え合い、助け合いの精神を持って数学を乗り越えることは 教える側の生徒、教えられる側の生徒にとってどのような効果があるのか。				
VOL.04	教科	情報・情報Ⅰ	個別最適	I C T	P D C A	学習計画 観点別評価
	テーマ	「主体的に学ぶ」ことが実践できる授業展開の探究				

2024.02.05		VOL. 1 to 10	
Try Report!			
チャレンジする教師の姿を見せる！ 本気で探究する大人の姿を見せる！			
『個別最適な学び』と『50分のやりがい』、そして探究！			
1・令和6年度の普通科改革推進事業の取り組み			
Ⅱパフォーマンス課題を開発するとともに、ルーブリックと自己評価を活用した授業実践と生徒の姿を評価する			
真質・能力のバランスのとれた学習評価を行うためには、指導と評価の一体化を図る中で、論文やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組ませるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらず、多面的・多角的な評価を行うことが必要である			
■具体的な取り組み ○総合的な探究の時間や地域探究、宇宙探究、学校設定科目において パフォーマンス課題の開発とルーブリックを作成し、それを活用した 主体的で探究的な授業実践に取り組む、目標に掲げた真質・能力の育成に努める			
2・探究的な授業で展開されるパフォーマンス課題をどう評価するか！			
Ⅲルーブリック・・・生徒の学習到達状況を評価するための、評価基準表のこと。 生徒たちが、自らの学びを目指すための「ものさし」です。 ※軸軸に複数の評価項目を置き、軸軸にはその到達レベルをS・A・B・Cの4段階で定義する。生徒の学びが各評価項目のどのレベルまで到達しているかを測ることで、ブレのない、客観的な評価が実現可能となる。 評価規準＝到達目標（～ができるようになる）・・・質的評価（A・B・C） 評価基準＝そのおおもとなる到達目標をさらに具体的に示したもの・・・量的評価（数値で表す1・2・3・4）			
Ⅳ自己評価・・・生徒が自らの評価と教員による評価の違いを知ること、学習目標が達成できていない部分とそうでない部分を具体的に把握できる。生徒がルーブリックをもとに自らの活動を反省的にふりかえることは、学習を次のステップへとつなげていくためのきっかけになりうる。			
3・みんなで使える、本校独自のルーブリックを作りました！			
Ⅴ一人ひとりのルーブリックを！（できたら、2つぐらい） 一人ひとりのアイデアを出しあって、本校独自のルーブリック一覧表を作成したいと考えています。 一覧表を作っていて、その中から単元ごとでねらいとする評価対象を取り出して、番号を入力するとルーブリックと自己評価表ができあがるというシステムを作りたいと思います。			
●評価の対象となる真質・能力と、その到達目標である評価規準、それと4段階の評価基準を、一人ひとりで入力して、頂けないでしょうか！（6月10日までお願いします） ※本校が作成をめざす生徒像の視点や各教科の視点から、必要となる評価対象を見つけてください。 下記EXCELファイルの一覧表シートの下にどんどん付け足してってください。			
00 R6年度ルーブリック ⇒「ルーブリック3と自己評価Vol1」ファイルです			
生徒同士が認め合い、支え合い、学び合える学級づくりへのチャレンジ！			

新学科設置に際して苦労・工夫していること

各教職員の理解促進への取り組み

令和6年度は
授業改革を本格化！

STEP4

パフォーマンス課題の
開発と共有化

各授業の評価規準
ルーブリック等の作成

□本校の新たな普通科における取組の目的・目標

新たな普通科における教育を通じて育成を目指す資質・能力は、多様で複合的なフィールドを生かし、地域と連携しながら、宇宙や科学を探究する意欲や、地域の課題を解決しようとする志を育むことを目標とし、総合的な探究の時間を中心としつつ、未来創造学科におけるあらゆる教育活動を通して育成を目指す



総探や地域探究、宇宙探究、学校設定科目を軸に

□育成を目指す資質・能力を育むための具体的な取り組み

- 総合的な探究の時間や地域探究、宇宙探究、学校設定科目において、パフォーマンス課題の開発とルーブリックを作成し、それを活用したパフォーマンス評価を取り入れ、主体的で探究的な授業改革に取り組み、新たな普通科で育成を目指す資質・能力を育む

□パフォーマンス課題とルーブリック・自己評価を取り入れた授業の実践

- ・单元ごとにパフォーマンス課題を取り入れる
- ・ルーブリックを示して学習目標の共有を図るとともに、授業の自己評価をさせる

➡ **何のために学ぶのか、どんな力を身に付けるのかを
生徒と共有し、主体的で探究的な授業を実践する**

□パフォーマンス課題とルーブリックを校内で共有する

- ・育成を目指す資質・能力をもとに、各教科でルーブリックの作成に取り組み、校内で共有する一覧表を作成する
- ・单元名や日時、評価対象番号を入力するだけで、ルーブリックと自己評価表が作成できる仕組みを作り、校内で共有し、ルーブリック作成の効率化を図る

ループリックを共有できる仕組みを作る

各教職員の理解促進への取り組み

- パフォーマンス課題を評価するために、学習目標に適合したループリックを！
- 校内で統一することで、生徒の取り組み易さと教職員の作業の効率化を実現！

評価対象の一覧表

ループリック評価一覧表					
③観点	評価対象	評価規準	C(1)		
1	知・技	知識と技能の獲得	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。		
2	知・技	情報活用能力	必要最低限の知識を獲得している。		
3	知・技	社会人の基本スキル	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。		
4	知・技	情報活用能力	必要最低限の知識を獲得している。		
5	知・技	資料(スライド)	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。		
6	知・技	資料(スライド)	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。		
7	知・技	質問・意見への対応	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。		
8	知・技	プレゼンテーション力	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。		
9	知・技	発表を尊重する	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。		
10	思・判・表	問題発見力	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。		
11	思・判・表	目標設定力	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。		
12	思・判・表	計画力	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。		
13	思・判・表	調整力	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。		

作成シート

単元ループリック					
単元名	情報処理: EXCEL実習(関数の活用)			日 時	2024年5月14日
加算・減算のキーワード(5割~10割)	①ワークシート	②文字列データ	③数値データ	④関数	⑤RANK関数
⑥条件分岐	⑦抽出	⑧円グラフ	⑨割合	⑩データ入力	
番号	③観点	評価対象	C(1)	B(2)	A(3)
1	知・技	知識と技能の獲得	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。
10	思・判・表	目標設定力	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。
36	主体的	自主性・主体性	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。

印刷シート

ループリックと自己評価表が完成

50個の評価対象を3観点に分けて整理

知識・技能のキーワードと評価対象の番号だけを入力

番号	③観点	評価対象	番号	③観点	評価対象
1	知・技	知識と技能の獲得	16	思・判・表	傾聴力
2	知・技	情報活用能力	17	思・判・表	実行力
3	知・技	社会人の基本スキル	18	思・判・表	修正力
4	知・技	情報活用能力	19	思・判・表	企画力
5	知・技	資料(スライド)	20	思・判・表	課題発見力
6	知・技	資料(スライド)	21	思・判・表	表現力
7	知・技	質問・意見への対応	22	思・判・表	科学性
8	知・技	プレゼンテーション力	23	思・判・表	他者を尊重する
9	思・判・表	問題発見力	24	思・判・表	協調性
10	思・判・表	目標設定力	25	思・判・表	豊かな感性協調性
11	思・判・表	計画力	26	思・判・表	発表のしかた
12	思・判・表	調整力	27	思・判・表	発表内容
13	思・判・表	自己表現力	28	思・判・表	発表内容
14	思・判・表	先見性	29	思・判・表	発表内容
15	思・判・表	発振力	30	思・判・表	課題設定能力

単元ループリック					
単元名	情報処理: EXCEL実習(関数の活用)			日 時	2024年5月14日(水)3限
知識・技能のキーワード	①ワークシート	②文字列データ	③数値データ	④関数	⑤RANK関数
⑥条件分岐	⑦抽出	⑧円グラフ	⑨割合	⑩データ入力	
③観点	評価対象		C(1)	B(2)	A(3)
1	知・技	知識と技能の獲得	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。
2	思・判・表	目標設定力	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。
3	主体的	自主性・主体性	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。

本単元の自己評価表

上記のループリックを参照して、本単元への取り組みの成果を自己評価し、次の学びに活かしてください。					
③観点	評価対象	自己評価	自己評価の理由		
1	知・技	知識と技能の獲得	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。	4・3・2・1	
2	思・判・表	目標設定力	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。	4・3・2・1	
3	主体的	自主性・主体性	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようとする意欲的に学習できる。	4・3・2・1	

自己評価の規準: 4(十分)・3(おおむね十分)・2(やや不十分)・1(不十分)

()年()組()番 氏名()

単元ループリックと自己評価表

各教職員の理解促進への取り組み

知識・技能は
キーワード法で

3観点から、
ひとつずつの
評価対象を選ぶ

単元ループリック						
単元名		情報処理: EXCEL実習(関数の活用)		日 時		2024年5月14日(水)3限
知識・技能のキーワード		①ワークシート ⑥条件分岐	②文字列データ ⑦抽出	③数値データ ⑧円グラフ	④関数 ⑨割合	⑤RANK関数 ⑩データ入力
3観点	評価対象	C(1)	B(2)	A(3)	S(4)	
1	知・技 知識と技能の獲得	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようと自発的に意欲的に学習できる。	知識が不足する学習の感覚を感じていない。	必要最低限の知識を獲得している。	既習内容がほぼ定着しており、新たな知識を獲得している。	既習内容が定着している。かつ自発的な学習を通して獲得した知識を活用している。
2	思・判・表 目標設定力	問題解決に対する見通しが固まっていらない。	ある程度の見通しが、論理的で	筋道を、論議ができる。	様々な条件を考慮し、問題解決に向けた計画ができてい	
3	主体的 自主性・主体性	課題研究に対し、自主的・主体的に活動している。	研究課題に対して、興味・関心をもっておらず、自主的・主体的にも活動していない。	研究課題に対して、興味・関心をもつものの、あまり自主的・主体的に活動していない。	研究課題に対して、興味・関心を持ち、常に自主的・主体的に活動している。	研究課題や、関連する新たな知識や技能に対して、興味・関心を持ち、常に自主的・主体的に活動している。

評価規準

評価基準

本単元の自己評価表				
□上記のループリックを参照して、本単元への取り組みの成果を自己評価し、次の学びに活かしてください。				
3観点	評価対象	自己評価	自己評価の理由	
1	知・技 知識と技能の獲得	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1		
2	思・判・表 目標設定力	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1		
3	主体的 自主性・主体性	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1		

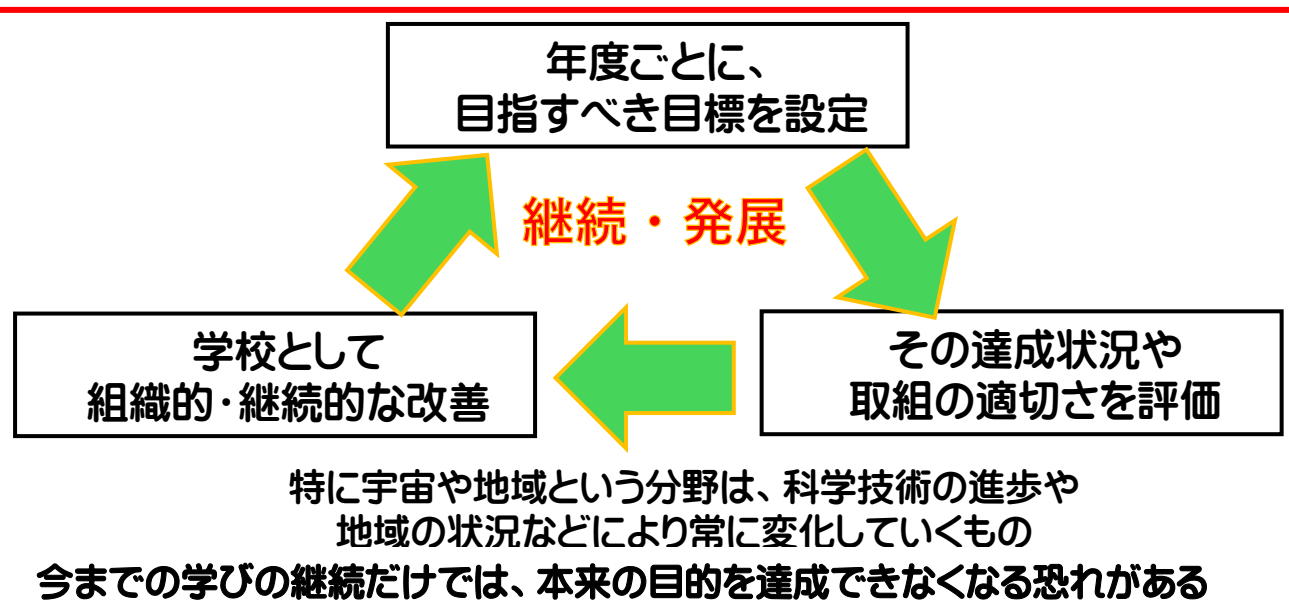
自己評価の理由を書かせる！
内省を促す！

自己評価の規準: 4 (十分) ・ 3 (おおむね十分) ・ 2 (やや不十分) ・ 1 (不十分)

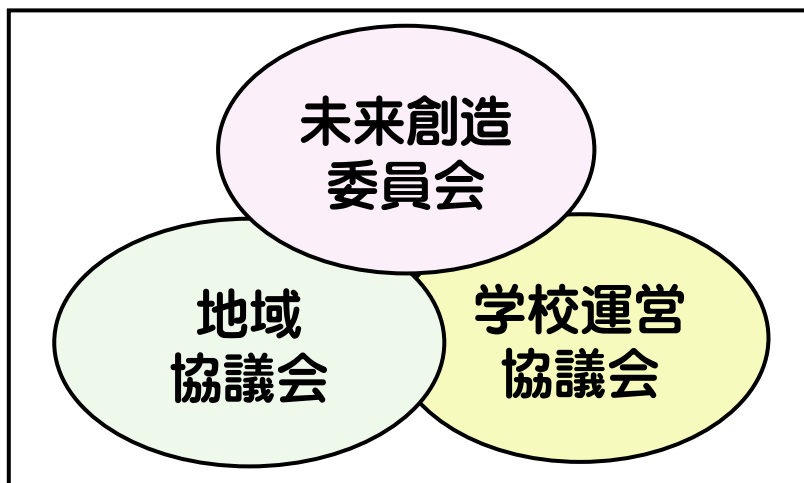
()年()組()番 氏名()

指定終了後の取組継続について

□国の指定終了後の取組継続のための仕組み



□既存の組織の活性化



未来創造委員会を校内に設置

新たな組織に改編、再構築

本取組を維持・発展させる組織として、令和6年度に未来創造委員会を新設し、年度ごとの評価と学びの改善、新たな学びを企画・立案し、創造する役割を果たすこととしている

学内外からの評価体制の確立

未来創造委員会と地域協議会、学校運営協議会が連携・協力を深め、PDCAサイクルに基づいた第三者による外部評価体制と内部評価体制を継続して充実させ、評価を公表する

県教育委員会の支援

- ①指導主事等が継続して学校訪問し、指導・助言
- ②評価結果をもとに適切な支援



本校の新たな教育活動が計画的・持続的に
取り組めるよう体制を整える

和歌山県立 串本古座高等学校



「夢を語れる 18歳」に！